

あそびに来てくれてありがとう

会いに来てくれてありがとう

地域の人と人、お店と人をつなぐ場づくり

私たちは、三鷹中央通り商店街です

みたか
みんなのまちに
なあれ！



未来に向けて。三鷹中央通り商店会の思い。

三鷹駅南口から連雀通りまで、約1kmのまっすぐな道「三鷹中央通り」。

そのうち360mほどが、「三鷹中央通り商店街」です。

1930(昭和5)年の三鷹駅開業を機に、それまで村のはずれだった今の駅前エリアには、商店や住居が立ち並ぶようになりました。

そして戦後の人口急増に伴い、狭い道の両側にびっしりと商店が続く通りに。

大きな転機となったのは1960年代。大きな火災を機に再開発が行われました。

1963(昭和38)年に、当時は画期的だった大型商業施設として三鷹センターがオープン。

1965年(昭和40)年には道の拡幅工事が完了し、「三鷹中央通り」が開通しました。

当時の賑わいを知る人は、「中央線沿線の各駅から、直通の買い物バスが運行されていた」

「お祭りでもないのに休日は道路が人で溢れていた」と懐かしみます。

それから半世紀以上、買い物のスタイルも、まちに暮らす人々にとっての商店街の価値も、大きく変わりました。この間、私たちは、商店街の活性化のためにキャンペーンやイベントなどさまざまな試行錯誤を重ねてきました。

そうして気づいたのは、

「商店街」はお店だけのものではなく、誰にでも開かれた「場」であり、

まちで暮らす人々が地域で活動・活躍するための「舞台」でもあるということでした。

実際にいくつかの魅力的な取り組みが生まれ、芽が出て、少しずつ花がひらき始めています。

本誌でご紹介するそれらの事例は、このまちにとっての未来や希望です。

これからの時代に向けて、地域みなさんと一緒に、

楽しくて素敵な「未来」や「希望」を描ける場所でありたい。

それが、私たち三鷹中央通り商店会の思いです。

未来に向けて——これまでのアクション

M-マルシェ、そこから生まれたさまざまなテーママルシェ



商店街をよりオープンな場にするため、2014年3月にスタートした「M-マルシェ」。まっすぐな道と歩行者天国を活用したクラフトマーケットです。12月には、クリスマスに合わせた「メリープレゼントフェスタ」として、多くの人がハッピーツリーに願いを寄せます。その後、回を重ねるごとに、焼菓子店などの食品、学生団体や地方との交流活動など、出店者のジャンルも多様化。さらに、星マルシェ、エコマルシェ、けんこうマルシェ、子どもマルシェ、防災マルシェなど、さまざまな分野で活動する地域の方々の企画・運営よって、テーマを持った新しいマルシェも生まれています。

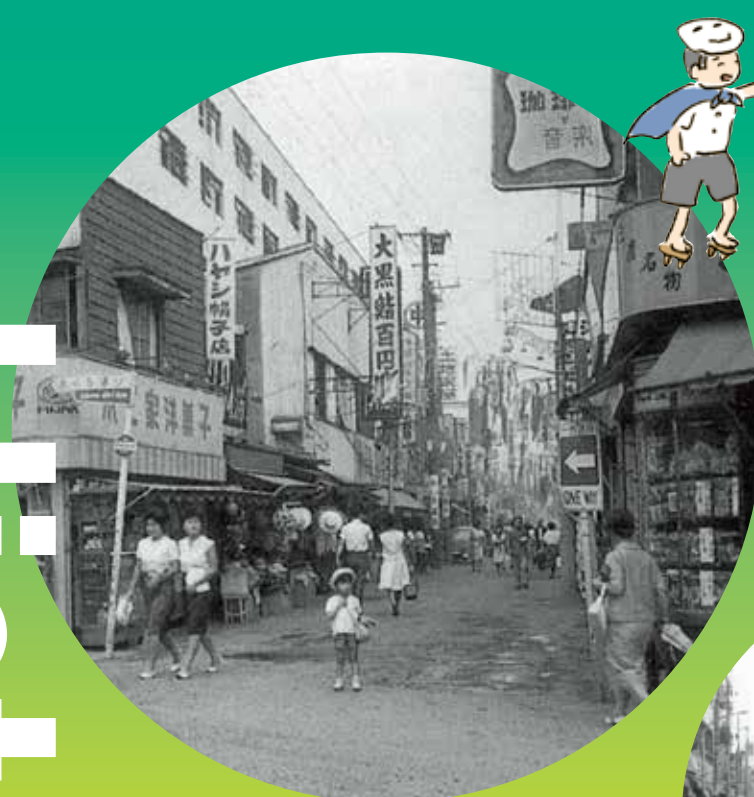


商店街の中に生まれた新しい場所、新しい活動



同じく2014年12月には、商店会も含むさまざまな団体が力を合わせ、三鷹中央ビルの空きスペースに「みたかスペースあい」が開設されました。個人やグループで利用できるまちなかのオープンなスペースです。続いて、2018年6月には商店会と子育て世代を中心にした地域の方々との運営による「みたかスペースあいプラス」が誕生。商店街を活動の場として、これまで接点のなかった人々や活動が会うことで、新しいつながりが次々と生まれるようになりました。コロナ禍の中2020年秋には、専門家や市民が参加して路上の活用を探る新しいプロジェクト「Walkable Mitaka(ウォーカブルミタカ)」もスタートしています。

History



1963(昭和38)年頃の商店街

現在の三鷹駅南口のスクランブル交差点の位置、駅側から南側を撮影した写真です。写真左(東側)に見える白いビルは、完成間近の三鷹センタービル。この後、道路の拡幅により、左側の商店はセンタービルへの入居や移転により姿を消します。



1965(昭和40)年 三鷹中央通り開通式

でこぼこの狭い道から、ほぼ現在の姿に。二車線の舗装道路に生まれ変わりました。



1975(昭和50)年頃の賑わい

昭和40年代から50年代にかけては、中央線沿線有数の賑わいを誇りました。



1990s



1990-2000年代

商店街活性化の模索として、お買い物ポイントカードや未来の商店街像についての市民からのアイデア募集など、さまざまな取り組みを行ってきました。



2000年代以降

西側(写真左手)も、ほぼマンションに建て替わり、その低層階が商店という街並みに。東側(写真右手)もエリア全体の再開発が予定されています。



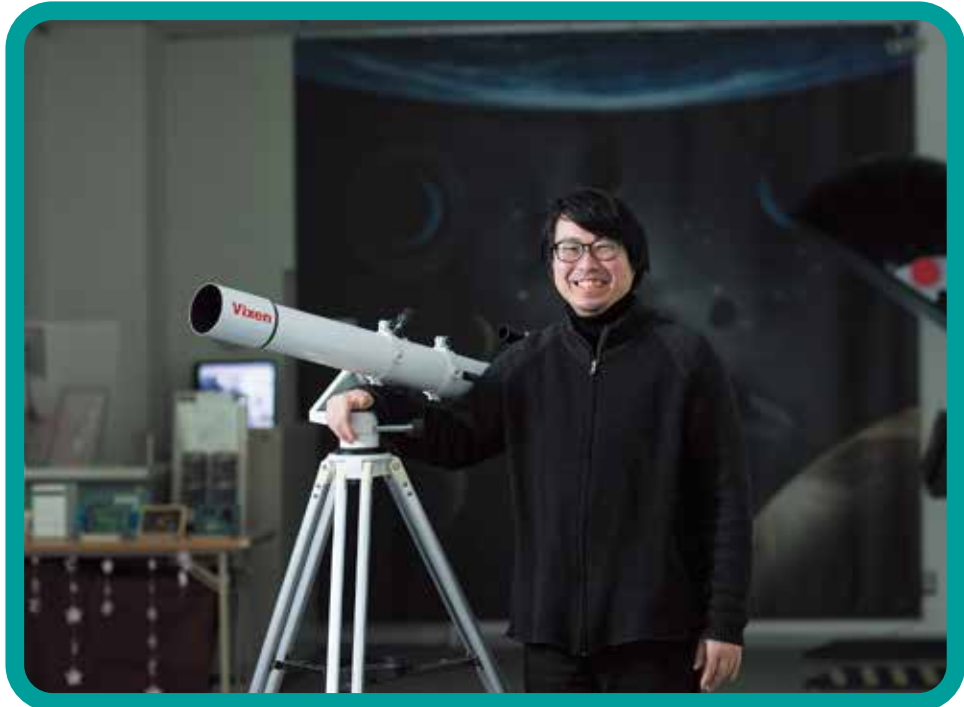
2019(令和元)年

三鷹駅南口中央通り東地区再開発事業について、三鷹市が「子どもの森(仮称)」のイメージコンセプトを発表。まちのかたちが大きく変わる時代を迎えます。私たち三鷹中央通り商店会は、地域のみなさんと一緒に、夢のある未来図を描いていきたいと考えています。

2010s

Future

星マルシェ実行委員会 原道隆さん 冬のまちを輝かせるための、 丁寧なイベントづくり



M-マルシェから生まれた初のテーママルシェ「星マルシェ」。毎年11月の開催で、2016年のスタート以来、4回を数えています(2020年はコロナ禍でお休み)。通常のM-マルシェに重ねて、「星のクラフト&マーケット」「星のフード&ドリンク」「星のワークショップ」など星を冠した企画で通りが彩られるとともに、天文・宇宙に関するトークイベントや演劇、「星弁レシビコンテスト」などの催しも展開されてきました。そんなイベントを企画し、実行委員会の中心を担っているのは原道隆さん。三鷹中央通りで70余年の歴史を持つ評判堂の三代目です。映像関係のお仕事を10年ほど前から実家のお仕事に。夏まつりや阿波踊りで賑わう夏に対して、冬の時期を盛り上げる良いイベントはないかと商店会の仲間と考える中で、国立天文台のご縁、他地域のイベントからのヒント、天文・科学情報スペースの開設などさまざまなタイミングが重なり、星マルシェが生み出されました。地域のイベントとして、地域の人々が楽しみながら開催すること、そして、まちの礎として着実に育てていくことが大切だと考えている原さん。地域内外でのテーマに沿った出店者・出演者探しに加えて、M-マルシェの出店者さんたちにも「星のクラフト&マーケット」向けの作品づくりを呼びかけるなど、地道に輪を広げています。「この商店街は、誰もが参加できて、いろいろなことができる場。星マルシェも、多くの人にとって参加の入り口の一つでありたい」との言葉が印象的でした。



地域の未来づくりにつながる、 まちでの図工の時間

山と水の図工室 山内 佑輔さん&水野 明香さん

小学校の図画工作科の教員である山内さんと水野さん。「学校の授業の枠を超えて、子どもたちが思いっきり図工を楽しめる場を作りたい」との思いで意気投合し、2018年にスタートした活動です。ご縁あって三鷹中央通りの「みたかスペースあい」を知り、活動場所の一つにされています。実は、スペースあい近くの空き店舗のシャッターに描かれている絵は、このお二人の活動が起点となり、地元中学校の美術部の生徒さんたちが中心になって創り上げたものです。商店街で活動することの魅力を、「子どもたちがまちとつながっていくこと」とお二人は言います。例えば、ワークショップに参加した子どもたちに、材料のダンボール集めから自分たちでやらせてもらう。そうすると、通りに出たお店の人に声をかけ、廃棄するダンボールを分けてもらえないうち相談して、お礼を言って持ち帰ってくる。また、終了後には、「あのお店でもらったんだよ」とうれしそうに親に伝え、親子でお店の人と挨拶し合う関係が生まれていく。閉じた場所でのワークショップと異なり、コミュニケーションや地域のつながりなど、子どもたちの学びが飛躍的に広がるのです。これからの展開を伺うと、「移動式の屋台図工室を作って、通りのあちこちでオープンに活動をして」「子どもたちの作品を通して、商店街で人がつながり、めぐるエコシステムを」と次々と素敵なアイデアが。熱い思いを持って教室を飛び出したお二人のコラボによって、色彩豊かなまちの未来が見えてきました。



WEBサイト



Facebook



まちの今に向き合い、 未来をつくる人々

三鷹中央通り商店街を舞台に展開されるさまざまな活動。
その担い手の方々に、現在の取り組みと未来への思いを
語っていただきました。

「通り」のもつ可能性を、ゆるやかに切り拓く

Walkable Mitaka - あるけるミタカ研究所- 笠置 秀紀さん

2020年秋に始動したばかりの新しいプロジェクト。地域活性化のための「路上の活用」をテーマにした講演イベントをきっかけに、三鷹中央通り商店街を舞台に実践を！という人々が集いました。その輪はSNSや口コミで広がり、商店主や地域に携わる人だけではなく、ごく普通の会社員から地元の事業者まで、今やメンバーは40人ほど。その多様な構成の中で、笠置さんは建築家としての知見を生かし、まとめ役を担っています。最初の活動として2度にわたって実施した社会実験では、歩行者天国の中にさまざまなタイプの椅子や座れるスポットを設置。通行者の人々が休憩や家族の語らいに使う姿、子どもたちが楽しむ姿を観察し、「気軽に座ることのできる道」「滞在できる道」の価値と可能性を改めて認識しました。短期間で多くの人が参加する活動になった背景について、笠置さんはWalkable Mitakaのもつ「ゆるさ」を挙げます。「義務ありきの活動ではなく、まずは誰もが受け入れられる寛容性の高い活動であることが大切です。そして、それぞれの楽しさを、それぞれが楽しめるようにしていけば、みんなのクリエイティビティも上がります」。今後は、無理のない範囲で活動を継続しつつ、これまで地域との接点が少ない周辺のマンションの人たちも関わってくれるような展開をしていきたいとのこと。「暮らす人が『自分のまち』と感じられる、心の拠り所となるまちにしていきたい」、そして「その第一歩、まずは道に座ってみてください」と笑顔で語ってくれました。



メンバーの藤野敬史さん発案の椅子



メンバーの荒木源希さんの作品



中央通りを照らす、ハンドメイドの空間

みたかスペースあいプラス 竹本 由紀子さん&迫田 明美さん

黄色い看板が目を引く「スペースあいプラス」。子育て世代を中心とした活動の場、多世代の交流拠点となることを目指して、2018年6月にオープンしました。足を踏み入れると、多種多様な手作りの作品たちが並ぶ小箱スペースが50ほど。それらの小箱を利用する作家さんは、20代からなんと90歳まで！実に多世代です。竹本さんと迫田さんは当初から運営に関わり、10人ほどの仲間とともに、作品づくりのワークショップの開催や、季節に合わせた展示の企画などを行ってきました。これまでに実施したイベントの中でも、手芸やクラフトの作家さんが使いきれなかった材料を持ち寄っての「材料市」は大好評で、地域でものづくりを趣味とする人たちが楽しみに集う催しになっています。これまでの2年半ほどの中で、大きな転機となったのはやはりコロナ禍。2020年の春には、それまでの賑やかな交流が途絶え、通りを行き交う人もまばらに。しかし、マスク不足に対応して、色とりどりの手作りのマスクを並べたところ、これまで関心なく通り過ぎただけだった人たちが目を向けてくれる結果となりました。従来は少なかった男性のお客さんも増え、新作を楽しむにして毎週訪れる方も。コロナ禍の先が見えない時期の取材でしたが、お二人は「気軽に参加していただけるよう、ワークショップの幅を広げ、頻度を増やしたい」「関わりができた人たちと、歩行者天国やM-マルシェと一緒に盛り上げたい」とあくまで前向き。通りを照らす明るさがそこにありました。



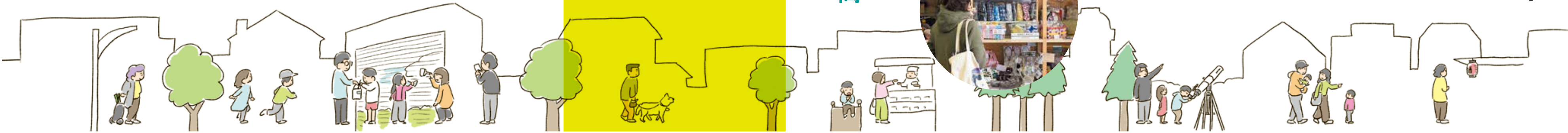
みたかスペースあいプラス

三鷹市下連雀3-28-20

【開室日・時間】毎週木・金・土・日 10:00～16:00(変動あり)



Instagram



三鷹中央通り商店会の70を超えるお店には、それぞれに個性的な人・サービス・商品、こだわりや思い、そして、このまちの中で地域のお客さまと歩んできた歴史があります。それらを少しでもご紹介できればと、今回の創刊号では、第1弾として5つのお店をセレクト。編集部が一店一店インタビューを行い、その魅力を探ってきました。

足つぼの湧泉

子育てママの心身を癒す、温かな時間と空間

会社役員時代に台湾式フレクソロジーの普及に関わった久木田辰郎さんが、18年前に開設。足裏だけでなく、じっくりと全身の整体を行うのが特徴です。元教員の奥様が託児を担当されるので、子ども連れでも安心。ご長男も加わり、施術室を増やす盛況ぶりです*。「みなさんがお子さんの写真付きの年賀状をくださって、孫がたくさんいる気分です」と語る優しい笑顔にも癒されます。

店舗情報

住所：下連雀3-34-2 エミネスイン三鷹501、506号室
※506号室は「湧泉プラス」として営業
TEL：0422-79-3931
営業時間：10:00～20:00（最終受付19:00）
湧泉プラス：11:00～22:00（最終受付19:00）
定休日：月（湧泉プラス：火・水）



WEBサイト



一富士フルーツ

新しい価値を提供し続ける、みずみずしい老舗

1956年創業の老舗果実店。商店街の中でも特に元気な声が響く、昔からのファンの多いお店です。でも、それに安住することなく、新しい商品や産地の開拓、SNSでの情報発信など、二代目ご夫妻と三世代目を担うお子さんたちは常にチャレンジング！特に、厳選した果物を使用したフルーツサンドは、そのビジュアルと豊潤な味わいにより、近隣エリアでも話題の商品となっています。

店舗情報

住所：下連雀3-33-7
TEL：0422-43-6554
営業時間：8:30～19:00
定休日：水



WEBサイト



Twitter



Instagram



Bakery Café délices,

素敵なベーカリーが持つ、大手も注目の商品開発力

昨年リニューアルオープンしたばかりのオシャレなベーカリー。でも、その魅力は美味しいパンとそれを楽しめるカフェだけではありません。地元出身のオーナー・井上正さんの高い技術力で生み出された低アレルギーのパンや米粉パンは、大手商社や食品メーカーも注目する逸品。そんな井上さんの商品開発の舞台であり、お店を通した地元活性化の模索の場、それがデリスなのです。

店舗情報

住所：下連雀3-31-2
TEL：0422-46-8308
営業時間：ベーカリー 8:00～20:00
イートイン 8:00～17:00
（ランチ11:30～15:00）
定休日：火



WEBサイト



Instagram



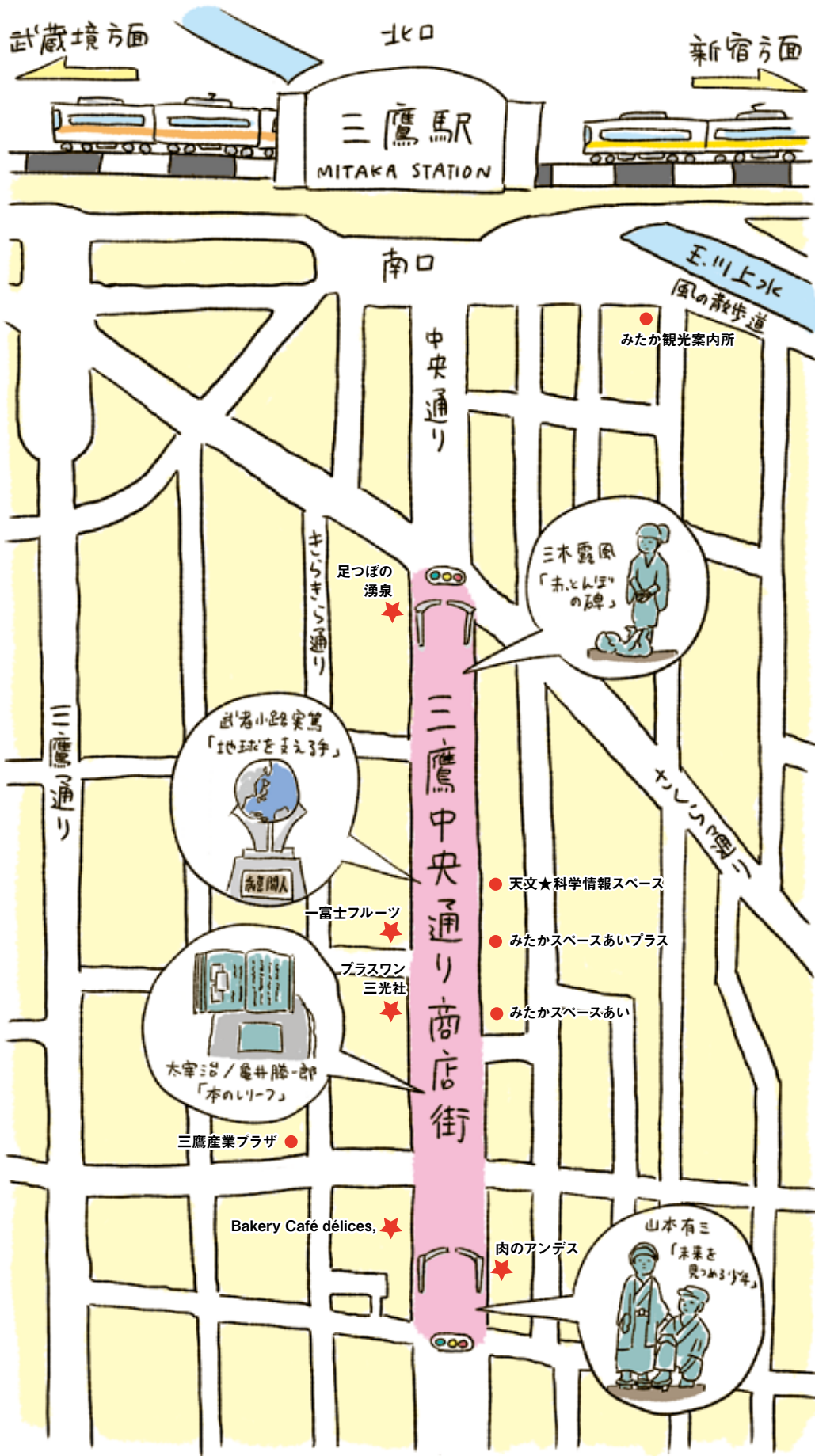
肉のアンデス

味と姿勢を守りながら、食卓を支え続けて半世紀

店頭で蒸し上げられるシュウマイたち、なんとも美味しそうな湯気が立ち上ります。ずらっと並ぶ惣菜は50年余り変わらぬ味。当初からの常連で今や孫の代というご家庭も。「お客さんとの会話がこの仕事の魅力」と店長の佐藤隆さん。忙しくお肉を切り分けながら、料理に合った部位を若いお客さんにアドバイスする姿に、「美味しく食べてもらうまでが仕事」という職人の気概を感じます。

店舗情報

住所：下連雀3-30-9
TEL：0422-47-5853
営業時間：9:00～19:00
定休日：年中無休



三鷹中央通り商店街には三鷹ゆかりの文豪にちなんだモニュメントが4つあります。ぜひ探してみてください。

プラスワン 三光社

電気のプロとして、家庭とまちの「安心・安全」を守る

「自分たちの役割は『安心・安全』』との言葉に続き、「若い世代でも家電が苦手な人はいるし、電気の事故は意外に多い。量販店さんには難しい細やかなフォローが私たちの仕事」と店長の溜浩幸さん。販売から納品、アフターケアまで一人の担当が担う体制をとり、電球一つの付け替えに駆けつけることもしばしば。取材中も次々と携帯に着信があり、親身に対応する姿が印象的でした。

店舗情報

住所：下連雀3-32-19 コスモ三鷹中央通り102号
TEL：0422-44-1503
営業時間：10:00～19:30
定休日：火



WEBサイト



三鷹中央通り商店会

加盟店一覧

サービス

カラオケ ビッグエコー 三鷹中央通り店
LOOP
グッディーホーム
フジタ 東日本開発事業部 城西オフィス
hair flores 三鷹店
内藤証券三鷹支店
クロックキッズイングリッシュ
TBK三鷹店
(株)サンケイ 三鷹支社
ドゥーエ
スワローチェーン三鷹南口店
三幸舎
明豊
プレミアニールサロン
クリーニングみやお
みち美容室
はんこ屋さん21三鷹店
ダンス教室M・佐々木
JA東京むさし 三鷹駅前支店

飲食

串焼きビステ
大戸屋ごはん処 三鷹南口店
ラーメンせい家
バナナフィッシュ
モダンタイムス
Bar and Dining WATERFOWLS
らーめん ちくせん
呑み処さいとう
中華銘菜 餃子菜館
フレッシュネスバーガー 三鷹南口店
寿司金
Bakery Café délices,
分福
COYOTE
Pho You フォーとバインミーのお店
焼肉ホルモン牛繁 三鷹店
すず喜

食品

おかしのまちおか 三鷹店
ヒロヤショップ

一富士フルーツ

肉のアンデス
東急ストア 三鷹センター店
豊島屋

生活

中村屋履物店
靴の専門店ヒロセ
モア白金堂
auショップ三鷹
ブティックOVE
東京靴流通センター 三鷹中央通り店
山田家具店
ふぢや玩具店
ブーの森
ライフイン ナトリヤ
プラスワン 三光社
アートフレーミング アイガ
はふや洋品店
花のサンライズ
シガーショップみわた
セオサイクル 三鷹店
ファミリーマート 三鷹中央通り南店
さつきや
評判堂

医療・健康

足つぼの湧泉
グローバル治療院 三鷹
小川クリニック
おごと皮膚科クリニック
オレンジセオリーフィットネス三鷹
OSSO バランシア
One Self 三鷹
ねま歯科クリニック
バルモ三鷹整骨院
三鷹ハートフル小児歯科医院
佐野薬局
三鷹レディースクリニック
三鷹中央通り歯科





杏林大学
保健学部看護学科 教授
大木 幸子さん

要介護の母の物は、お店で相談して選べると安心。三鷹中央通り商店会で「かかりつけ店舗」開拓中です。



wata焼き菓子
(三鷹市新川)
横田 明子さん

M-マルシェでしかお会いできないお客様や運営スタッフの皆様の笑顔にパワーを貰える日を心待ちにしています！



小学5年生
高柳 七海さん

スペースあいの「山と水の図工室」や手芸教室では、自由にいろいろなものを作ることができて、とても楽しいです。



福島県・矢吹町役場
企画総務課 副課長
柏村 秀一さん

矢吹の子ども達の夢をクリスマスカードで飾ってくれた「ハッピーツリー」。つながる幸せの木、大きなあれ！

応援します！

三鷹中央通り商店会

情報誌の創刊という三鷹中央通り商店会の

新しいチャレンジに際して、

商店街のサポーターやファンのみなさまから、

あたたかいエールをいただきました！



三鷹市在住歴12年
40代主婦
板倉 絵美さん

路上で「お能」を披露する催しに娘が6歳から6年連続参加。お稽古を含め、貴重な体験をさせていただきました。



防災団体
「やろうよ！こどもぼうさい」代表
山崎 光さん

温かい人のつながりとチャレンジの気性にあふれ、歴史と未来がつながる中央通り商店街をずっと応援しています！



東京三鷹・阿波踊り
三鷹中央通り商店会「みたか連」
連員一同

みたか連のモットーは「美しく、楽しく、カッコよく」。阿波おどりと一緒に三鷹の未来を盛り上げていきましょう！



三鷹のにしがわ在住
川村明さん・さつきさん

「ちょこっと寄れる」ご近所さんのようなお店がたくさん。娘が小さな頃から家族ぐるみでお世話になっています。



一般社団法人みたかSCサポートネット
代表理事
四柳 千夏子さん

学びの場は学校だけではなく。子ども×学び×商店街。かけ算の答えは、未来の人育て、まちづくり！



茨城県笠間市
笠間いなり寿司いな吉会
菅井 敏幸さん

三鷹の皆さんのオープンで温かい姿勢に甘えて始まった交流。コロナ禍を乗り越え、相互に広げていきましょう！

「育てる機能を持つ商店街へ」 「チャレンジできる場があるまちへ」

地域の活動や発表の場として、ぜひ三鷹中央通り商店街を

市内各所からのバス路線が集中するJR三鷹駅南口駅前という「立地」、人が主役の安心・安全な空間「歩行者天国」、活動に利用できるまちなかのコミュニティスペース「みたかスペースあい」、そして、出店・参加も可能な「M-マルシェ」や「テーママルシェ」などのイベント。これら三鷹中央通り商店街の貴重な資源は、多くのみなさんに広く活用いただいてこそ意味のあるものだと考えています。「活動発表」「展示」「ワークショップ」「お店体験」など、学校をはじめ、教育・福祉関係、地域活動団体など、みなさんからのご相談もお待ちしております。商店街には未来や希望を描く新たな発想の“種”を「育てる機能」、そして「チャレンジできる場」があります。商店街での多様な体験、挑戦は人を成長させ、地域の力となり、人やまちの魅力は暮らしの豊かさにつながります。また商店街に遊びにいらしてください。ぜひ会いにいらしてください。

協同組合三鷹中央通り商店会一同



三鷹中央通り商店会 WEBサイトリニューアル！

『みらいず』の発行に合わせて、WEBサイトのリニューアルを行いました。
最新情報はこちらでチェック！



YouTubeチャンネルもオープン！

『みらいず』創刊号の取材先のインタビュー動画、創刊に至るメイキング動画を公開！ぜひご覧ください♪



編集後記

今回の情報誌づくりにあたり、私たちが目指したのは、これまでに多くの方々と一緒に取り組んできた未来に向けての歩みを「見える化」すること。これまできちんと発信できていなかったことがらを、こうして思いを込めてお届けし、知っていただくことです。この創刊号を出発点に、次世代の笑顔と夢にみちた地域の「みらいず（未来図）」を、より多くのみなさまと描いていくことができれば幸いです。(HM)



三鷹中央通り商店会
情報誌『みらいず／M+Rise』
創刊号 2021年2月12日発行

発行：協同組合 三鷹中央通り商店会
企画：三鷹中央通り商店会みらいず編集委員会

編集：米川 充・稲富 能恵(株式会社文伸)
取材・執筆：米川 充(株式会社文伸)
撮影：キリンニジイロ 鈴木 智哉
動画：地域と映像 佐藤 洋輔
デザイン：FULL DESIGN 古田 裕
イラスト：黒木 裕貴
協力：三鷹市、三鷹市教育委員会
撮影協力：天文・科学情報スペース

協同組合
三鷹中央通り商店会

本誌についてのお問い合わせ
info@mitaka-ekimae.com

本誌の中では「三鷹中央通り商店街」と「三鷹中央通り商店会」の2つの表記を次のように使い分けています。
・エリアとして、商店街としての記述＝三鷹中央通り商店街
・商店街の店舗による組織・法人としての記述＝三鷹中央通り商店会